

恋愛関係が青年に及ぼす影響についての探索的研究

— 対人関係観に着目して —¹⁾

多 川 則 子²⁾

問題・目的

本研究の目的は、恋愛関係における相互作用が青年に対し、どのような影響をもたらすのか、特に個人のもつ価値観や信念に対する影響を中心に探索的に検討することである。

青年期は異性との関係に強い関心をもちはじめる時期であり、結婚と家庭生活の準備期ともいえることから、青年にとって恋愛関係は重要だろうと思われる。この恋愛関係での相互作用のあり方は、当該関係の善し悪しだけでなく、個人の内面にまで影響すると考えられる。

対人関係の発展理論の1つ、Murstein (1970) のSVR理論では、関係の発展を3段階に分けて説明している。まず、近接性や相手の容貌や振る舞いなどが重要となるS (Stimulus) 段階があり、次に、価値観の共有が重要となるV (Value) 段階、さらに互いの役割を分担して行動することが重要となるR (Role) 段階となる。この発展モデルによると、関係の初期は外見や近接性などが重要であるが、その後関係が進展するためには態度や価値観の類似性など、個人の内面に关わる要因が重要となることがわかる。Kerckhoff & Davis (1962) のフィルタリングモデルでも、互いの価値観や欲求が適合しているかどうかに関係の存続には重要であると考えられている。ここでの態度や価値観の類似性とは、個人がすでに確立された価値観をもっており、それが2人の中で類似しているかどうかに関係の進展を左右する、という意味合いが強い。しかし、価値観は必ずしも確立され変化しないものではない。特に青年期にある人はその形成過程にあり、価値観の変化が生じる可能性が高い。確立された価値観の突合せだけでなく、恋愛相手との相互作用を経て二人の価値観が類似してくるということも考えられるのである。

恋愛関係が個人の内面に影響を与えることを示唆する研究として、Dietch (1978) を挙げることができる。Dietch (1978) は、過去3年の間に恋愛関係をもったことがない人よりも、恋愛関係をもった人の方が自己実現の程度が高いことを示している。ここでは、恋愛経験の有無そのものに焦点があり、質的な側面は取り上げられていない。これに対し、恋愛関係の質的な側面に着目した研究も見られる。堀毛 (1994) は、当人が関係の重要性を認知していることや相手への熱愛度の高さによって、異性関係スキルや対人関係の基本的なスキル (基本スキル) が高まることを示している。Ruvolo & Brennan (1997) は、相手から援助や愛情を受けているほど、個人の成長の程度 (自分がどの程度理想に近づいているとみなすか) が高いことを示している。単なる恋愛経験の有無を指標とするよりも恋愛関係における具体的な様相や相互作用について言及した方が、社会に対する提言という意味において有益であると思われる。

また多川 (2002) では、関係の親密化という質的側面に着目し縦断調査により検討を行っている。ここでは、対人関係観というものを取り上げ、これが恋愛や友人関係の親密化によって影響を受けるかどうかを検討している。対人関係観とは価値観の一種であり、特に人との関わりに関する価値観を指している。人と関わる時の行動を規定するものであり、行動の指針となるものである。また、対人関係観は特定他者との関わりにおいてのみ適用される価値観ではなく、それら個別の価値観の根幹にあるものと考えられている。具体的には、人と深く関わることに危険を感じるなどといった「防衛的な付き合い方」因子、人とは協調し誠実に付き合うべきだという「協調性・誠実性」因子、人との付き合いの中で新たな自分を発見するなどの「自己成長の契機」因子、自分の意見ははっきりと主張すべきだという「主張性」因子で構成されている。関係の親密化についても、関係内で行われる行動の頻度と相手に対する信頼感の2側面で捉えている。調査の結果、恋愛関係の親密化が、特に行動面での親密化が「協調性・誠実性」「主張性」に影響していることが示された。しかし、恋愛関係の親密化という

1) 本研究の一部は、日本社会心理学会第43回大会において発表された。

2) 名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士課程 (後期課程)

指標を用いてはいるものの、具体的に、どのような相互作用が対人関係観の変化を生じさせているのかは不明なままである。この問題は上記に挙げたいずれの研究にも共通する。つまり、恋愛関係の質的側面が個人の内面へどのようなプロセスを経て影響しているのかわからないということである。そこで本研究では、恋愛関係におけるどのような相互作用が個人の内面に影響するのかを検討する。本研究でも多川（2002）に引き続き対人関係観に着目し、恋愛における相互作用が対人関係観へ与える影響を中心に検討することとする。また質問紙研究には、価値観の変化が起こったその時に調査ができるとは限らない、研究者側が設定した変数以外の情報を得ることはできないなどの方法上の限界がある。恋愛関係という親密な関係や、個人の内面の変化を扱いたいのであれば、質問紙研究だけではなく面接調査によって質的に分析することが重要となってくるだろう。そこで、本研究では面接法を用いて探索的に検討する。

どのような相互作用が対人関係観の変化を生じさせるのかという点については、松井（1990）が参考になるだろう。松井（1990）は、青年の社会化に影響する友人関係の機能として、安定化の機能、社会的スキルの学習機能、モデル機能の3つを挙げている。安定化の機能とは、友人に自分の抱える悩みを聞いてもらい、また、友人と一緒に活動することを通して、精神的安定がもたらされることを指す。社会的スキルの学習機能とは、どのように自分の気持ちを伝えればよいか、相手はどこまで信じられるのか、どうすれば暖かい関係をもてるのかなど、様々な知識や振る舞い方の技術が必要とされる友人関係を通して、他者との相互作用の仕方を学習することを指す。モデル機能とは、友人は、自分にはない資質をもち、尊敬しあこがれる存在でもあり、その友人の行動や考えを手本とすることを指す。恋愛関係においても友人と同様に、このような3つの機能があると予想される。

また、対人関係観は、恋愛関係だけでなく、親友や仲間との関係などから影響を受けることも考えられる。さらに、恋愛関係が影響するものは、対人関係観だけではない可能性もある。そこで本研究ではこれらの点を考慮し、恋愛関係は何に影響を与えるのか、対人関係観は何に影響されるのか、という観点からも検討することとする。

方法

大学の講義時間中に面接調査への依頼をし、承諾を得られた人に対して半構造化面接を実施した。恋愛関係の縦断的な変化を捉えるために7月と11月の2回に渡って面接を実施した（今回は11月の調査を検討の対象とした）。

一人一回あたりの所要時間はおよそ30分から40分であった。面接内容は承諾を得て録音した。

面接内容は本研究の目的に沿った質問を含み、他にも恋愛関係に関するいくつかの質問をしている。その中から今回取り上げるのは、恋愛関係による自分自身の変化や対人関係観の変化などの経験について尋ねた11月での面接内容である。具体的には、以下の3つの質問に対する回答に絞って結果を整理した。a) 恋愛によって自分自身に変化があったか、b) 対人関係観に変化があったか、c) 恋愛関係によって対人関係観に変化があったか、の3つである。各質問に対し変化したと答えた人には、さらにどういう側面が変化したのか、変化の原因は何かについて質問をした。

対象者は、恋愛相手がいると答えた大学生41名であった。録音不備であった2名を除く39名（男性9名、女性30名）を考察の対象とした。対象者の平均年齢は19.8歳（SDは2.08歳）であった。交際相手は約7割が大学生（その他高校生、社会人など）であり、平均年齢は20.9歳（SDは3.57歳）であった。交際期間は平均1年5ヶ月（SDは1年1ヶ月）であり、最短で4ヶ月、最長で4年3ヶ月に及んでいた。

結果・考察

結果の整理

3つの質問に対する回答を逐語録に起こし、回答の内容が損なわれないように留意し要約を作成した。要約を回答者の性別とともに以下に示す。IDは回答者番号を示し、a～cは上記の質問に対する回答であることを示す。ID11、ID14の要約は抜けているが、これらは録音不備のため考察の対象から除外した2名分である。また、回答者の年齢や交際相手の属性、交際期間などは重要な情報であるが、回答者が特定されることを防ぐためと本研究の考察に直接関連しないことから、回答者の性別のみを記載した。

a～cの3つの質問のいずれかにおいて、恋愛関係による何らかの変化を報告した回答者は31名（79.5%）であった。約8割の回答者が恋愛関係による影響を認識していたといえる。残りの8名のうち、ID6、ID34、ID38の3名（7.7%）は3つの質問のいずれにも変化はないと答えており、ID17、ID20、ID22、ID31、ID37の5名（12.8%）は何による変化なのかが不明である、もしくは恋愛関係以外からの影響を報告していた。他にも、恋愛関係以外からの影響を報告している人が見られたが、多くの方は恋愛関係からの影響も合わせて報告していた。

次に、恋愛関係による何らかの変化を報告した人（31

名)の要約の中から、対人関係観に対する影響だと思われる箇所を同定し下線(実線)を引いた。ここに該当した人は19名であった。

逐語の要約

要約中の下線は、実線が恋愛関係による対人関係観への影響だと思われる箇所、波線が恋愛関係以外から対人関係観への影響だと思われる箇所、点線が恋愛関係による対人関係観以外への影響だと思われる箇所を示している。

ID 1 (女性)

- a) (付き合う前と今とを比べると)精神的な拠り所が出来たことが変わった。
- b) みんなと仲良くしなければいけない感じだったが、今は合わない人は絶対いるものだから、その辺はもうちょっと柔軟に考えるようになった。(それはなぜ?)高校だと必然的に仲良くなくてとはいう状況が、けっこうあったりすると思うけれど、大学だと、自分が付き合う人を自分が決めれるので。
- c) 付き合ってる人が、価値観が一緒の人というのをけっこう大事にしている人なんで、そういうのを強く意識するようになった。だんだん仲良くなるにつれて。

ID 2 (女性)

- a) 友達の彼氏の話とかを聞いていて、将来のことなどを考えるようになって。具体的に結婚を考えるようになると、どうなんだろうっていう不安がある。(なぜ不安に?)2年半も続いているから、絶対気は合ってると思うけど、やっぱり合わない部分というのが絶対あると思う。話していて、ここは違うなと思う部分がある。今はそれもいいかと思ってるけど、もし積み重なってしまったらどうなるのかなとか。
- b) 最近、特に変わってない。
- c) 「自分の主張を言う」というのは、本当にそうだなと思うようになったのは、付き合い始めてからだと思う。相手(恋人)が自分の主張を言える人で、自分の考えを言わなければもっていることにはならないという考え方の人。そういうことを話しているうちに、今まであまり自分に自信が持ててなかった原因の一つに、自分の考えを言わなかったというのがあるのではないかと思って。

ID 3 (女性)

- a) プラスではないですけど、ちょっとマイナスの面で。今までは無理してでも、色が違うとを感じる人たちとも積極的に交わっていた。苦手と思えるような感じ

のところでも、チャレンジしてみようという勢いで。でもそれがまったくできなくなってしまった。(それはなぜ?)安心して戻れる場所(恋人との関係を指している)があるから、そこにいればもう甘やかされるし、怖い思いをして違う世界に飛び込んでいなくてもいい。

- b) ない、前回と同じ。
- c) あまり新しい感じ、人種の人とは積極的にはしゃべろうとはしなくなった。どちらかという、好きな人とか自分のいるグループを確立していきたい、というのが大きい。

ID 4 (男性)

- a) (恋人に)何気ないことでもしゃべるようになった分、(他の人に)八つ当たり、憂さ晴らしみたいな感じで言うことが、前よりは減ってきた。人が丸くなった、言う内容が前よりおとなしくなった。
- b) 昔は何でも人が傷つくことでも、正しければ、何でも言えたんですけど。少しは思いやってしゃべれるようになってきた。(それはなぜ?)付き合い始めた時のことも一つの理由だし、中学高校とあがるにつれて、自分が何かを任されたりすると、自分が無理を言ったり相手が嫌がることを言えば、当然聞いてくれない。そういうことを通して、「気をつけないといけない」と思うようになって、少し変わっていった。
- c) 一つは、他の人に余分なことを、傷つけるようなことを言わなくなった。(それはなぜ?)もしも自分が何か相手(恋人)に嫌なことを言った場合に、それが嫌だっということが返ってくるので。普通の友達だと、相手は言わずに我慢しちゃって返ってこない場合が多い。あとは、今までは、友達とか優先だったのが、どっちかっていうと付き合ってる人の方が先になっちゃって、友達付き合いとかが、前よりも薄くなった。

ID 5 (女性)

- a) 一人にいるときもちゃんとしようと思えるようになった。今は二人で一緒にいることはできなくて。でもだから何もできないんじゃないかと、離れていても付き合っているんだから、勉強にしても生活にしても一人できちんと強くなれるようになりたいと思うようになった。(それはなぜ?)夏休みはずっと一緒にいたから、終わってすぐがさみしくて、何もできなくなってしまった。それで、二人の間がちょっとおかしくなってしまった。でもいろいろ話して、つらくなってばかりいても何もならないから。離れているのは事実だから、そんななかでも、ちゃんと

してかなきゃいけないと思うようになって。

- b) 自分からもっとたくさん関わってこうとするようになったかもしれない、特に大学の人と。夏休み明けぐらいから。(それはなぜ?) 大学入ってすぐの頃は、高校の友達の方が大事だと思って、大学の友達はちょっと浅くてもいいかと思ってたんですけど、でもやっぱり何ヶ月も経つと、ほんとに友達になりたいから、それじゃあ自分から近づいていかなきゃだめだなと思うようになって。
- c) 相手の方が早く新しい環境に馴染んで。自分はまだ馴染めていなかった時に、相談したりして、がんばらなって言われて、がんばろうと思って。向こうはちゃんと大学で新しい生活を作っていっていて、だから、やっぱり大学が今の私の生活の場所なんだから、そこでちゃんと友達を作っていかなくっちゃいけないんだなと思って。相手の方の話を聞いても、大学の友達とすごく楽しそうで、そういうのもありました。

ID 6 (女性)

- a) 特にないと思います。
- b) あまり思いつかない。
- c) やっぱり、相手と話している中で、多少は影響されていると思うんですけど、どんなとこか言われると、ちょっと思いつかない。

ID 7 (女性)

- a) 一人で突っ走らなくてよくなったような気がする。一人で暮らして、なんでも一人でやんなきゃいけなくて。緊張を保ちながら、いろいろがんばらなくてよくなった。生活をしていると、いろいろ怖いこともありますよね。そういう心配とかもしなくていいし、嫌なことがあったら、話す相手がすぐいるし。(いつ頃からそう思う?)夏。前は実家に帰ってこっちにくるのが、すごく嫌だったんだけど、前はそうでもなかった。それなりに親と別れるのは寂しいんだけど、前より寂しくないなと思って。
- b) あまり、自分に嘘をつかないように。自分に正直に。ちゃんと自分をさらけ出そうと思っています。(それはなぜ?)人に信頼されるには、偽りのない自分を見せて、それで、その人が私を受け付けないならそれでいいと思うし。受け付けてくれるんだったら、仲良くなれそうだし、うまくやっていけるかなと思って。自分を、飾ってとか、嘘をついてると自分も疲れちャウし。そこまでして人に好かれたいと思わないから。中学校の頃はいい子をしていて疲れたし、人間関係にも苦しんだ。いろいろずっと考えて結局そういう結論に達したのかな。

- c) ないんじゃないかな。私は友達の延長線上に恋愛があることが多いので、あまり変わらない、そんなに変わらないんじゃないかなと思います。

ID 8 (女性)

- a) 結婚とか意識するようになってるかもしれないですけど。彼がどこに就職するかというあたりを決める時に、私に聞いてきたんで。
- b) 変わったというか、どうすればいいか分からなくなったという感じですかね。やっぱり私は人付き合いはあんま好きではないんだなと思ったような。人と話すのが嫌いなわけではないんですけど。あまり軽い付き合いもあんま好きじゃないというか、苦手というか。だからといって、深く付き合うのが得意かというとそうではない。もともと内気だったのを、嫌だから、もうちよっと社交的にってやってきてて、それが本来の姿になってきてたような感じはしてたんですけど、やっぱり違うかなって。(それはなぜ?)Aで活動してて、私、リーダーになってるんですよ。そうすると、まずはこれからやっていきたいこととか、方向性という話を決めないといけないなと思うんですけど。なかなかね。やっぱり人によって話し方が違うなあと思うんで。3人4人になると難しいんですよ。どういうふうに私がどういう態度をとればいいのか。というあたりですかね。
- c) 最近は恋愛によって変わったとはあんま思わないんですね。他のことで変わったというのが際立ってしまって分からないのかもしれないんですけど。

ID 9 (女性)

- a) 恋愛によってかどわかは分からない。怒らなくなった。例えば、妹があんまり手伝いとかをやらないことに対して。自分のことを棚に上げて、怒ってたのが、「まっ、いいか、私もそんないつもやってるわけじゃないし」って。(妹さんに対して以外には?)愚痴が少なくなった。「嫌だあ」とか「やりたくない」とか言ってもしようがないな、愚痴ってもしようがないからやればっていうのです。
- b) 人に愚痴を言うのはやめようって。(それはなぜ?)本当に相談する時は別として、ただ自分の嫌なことがあってそれを言うだけだと、どんどん気分が落ち込んでいく。メールとかだと、(恋人にも友人にも)すごい励まされたりとか、すごい心配されたりするから。返事が返ってくるころには、私が忘れていたりする。あと、友達に愚痴を言ったとき、建設的に、もっと前向きに、という話をいろいろしてくれたから、それもあるかもしれない。
- c) 愚痴は言うんだけど、言った後に、「もう嫌だ」と

かで終わるんじゃないくて、「次はがんばる」「またもう一回やってみる」とか、暗いまま終わらないようになってる。相手も愚痴を言うけど、同じように「次はがんばる」とか「でもやる」とかそういうふうに言うから、その影響かもしれない。

ID10 (女性)

- a) 4月入って一人暮らしはじめて、家でずっと黙っているから、なんとなく気持ちもどんどん沈んでいくし。まだはじまったばかりだから、友達ともそんな仲良いわけでもなく。そういうところから彼と付き合いだして、彼に何でも話すから、自分の気持ちもテンション低かったのが上がってくるし。学力とかは、彼がするから自分もする。結構、何でもプラスになってると思う。
- b) 嫌いな人というのは作りたくないから、深く付き合い嫌になるなら、そういうふうな人とはちょっと距離をおいて、大切な友達と深く。中学校までは違ったような気がする。突っ込んでいって失敗した。突っ込んでいくと、嫌いな人ってできるじゃないですか。そういう嫌いって感情って、自分にとってもマイナスだから。嫌いになるぐらいなら、付き合いなない。話す程度は話すけど、何でも話すとか、常に会話をするとかいうのはないように距離をとるようになったのは、やっぱり高校ぐらいから。
- c) 私はすぐ線を引くけど、向こうは誰とでも仲良くする。それを見て、線は引きながらも、誰とでも話そうかなって。前は、すぐにこれはだめだ、苦手だなんて思うとすぐにかなり距離を置くってことが多かったけど。彼は距離を置かずに話そうとするから、そういうの見てて、距離がちょっと短くなったのかなって思う。7月前まで、苦手だわこの人はって決め付けてた人と、彼はどんどん話していくのを見て、「あっ、ひょっとして、勝手に私が決め付けてただけかもしれないな」って思って。

ID12 (女性)

- a) 前は、自分が楽しいからいいみたいな感じで思ってた部分があったけど、今は、けんかの後ぐらいから、もっと相手のことをちゃんと考えてあげようという気持ちの変化があった。(それはなぜ?) 私が約束を守らなくてけんかになって、相手(恋人)は「こんな思いしたのかなあ」といろいろ考えた時に、いろいろ我慢して辛かったらああとって。
- b) やっぱりもっと相手の気持ちを考えて接しようと思えるようになったかな。特にどうしてという出来事も無いんですけど。
- c) 影響はいつも受けてると思う。普段はあまり気づか

ないんですけど、けんかをした時とかに気づかされるといふか。自分のこういうところがいけないとか、そういうのはけんかをしたあとの反省とかでよく出てきます。私は感情的な方だと思うんですけど。いつも一緒にいる彼氏が、そういう部分をいつも見ているわけだから、教えてもらって、ああそうなんかと気づくこととかもある。

ID13 (男性)

- a) 穏やかになったとは結構言われる。言いたいことをぐっとこらえるようになったんで。今までは、結構きついこととかでも言ってたんですけど、それがなくなった。彼女に会って、成長したといふか、変わった自分じゃないかなと思います。
- b) 人の気持ちを尊重するといふか。自分の言いたいことばかり言うのではなくて、相手の言い分をしっかり聞くというのが、人付き合いで大事かなと思いました。あと、誠意を見せる、本音で語れば誰でも納得してくれる、わかってくれる、それは本当にすごく思いました。(それはいつから?) 泊まりに行った時(恋人との旅行)に、いつも言えないこととかを言って、そこでやっぱり分かってくれるんだなって思いました。
- c) 今までは、まず人の言うことは疑ってかかっていたんですけど、その度合いが減った。(それはなぜ?) 向こう(恋人)がやっぱり本当に信頼させてくれるんで、そう人のことだますような人間はいないのかなと思えるようになって、信頼できるようになりました。

ID15 (女性)

- a) 気持ちの面では変わらないと思う。自分が人とお付き合いしていることで、親とそういうことについて話すことが増えたから。親、家族。一人暮らししているせいもあると思うんですけど、すごく大事に考えられるようになったなと思います。
- b) ゼミの合宿で、いろんな学年を超えて、いろんな話をするようになって。見かけで判断しちゃいけないと思うようになって。今までだったら、そういう機会がなければ話すことはなかったような人と話したりできたので、なるべくいろんな人と話しておくことが大事かなと思う。
- c) 今は、友達付き合いはそれはそれで楽しく。数人とは親しくまじめにいろんな話をするにしても、ある程度その時楽しければいいかなって。ちょっと私の付き合いしている相手とは違う考えが少し出てきて。いろんな人とその場楽しければいいじゃんというノリでいろんな人と付き合うことを(恋人は)すごく

嫌がるタイプで。私は、そういう性格に不満を持っていて、これからはちょっと新しいこといろいろやってみたいなって思ってるんです。その人と付き合ったために、自分の本来ああしたい、こうしたいというのをできなくなるのは、すごく嫌だなあって思うようになっていて。

ID16 (女性)

- a) 自分の将来について考えた時に、周りはサポートイブな意見ばかり言ってくれるんですけど、その人(恋人)は批判もすごくしてくれるので、自分のことを客観的に見ることができるようになった気がします。(恋人が)受け入れながら批判するという感じになってきたので、私も彼の批判が聞きやすいです。
- b) 言っちゃまずいことは言っちゃいけないという気持ちがかかなり強かった、前は。でも最近は、うそを言わなくなったというか、お世辞を言わなくなったというか。お世辞も含めて、人に嘘をつかないっていうことが、今の、人との接する時のやり方です。(それはなぜ?) こっちが遠慮してると、向こうも遠慮しちゃう。周りの人が私に「気を使わないでね」ということを言うんですね。その影響があると思います。あとは、彼がお世辞の言えない人で、最初はきついなと思ったんですけど。だんだんそれが気持ちがいいなと思えるようになってきた。
- c) 昔はお世辞ばかりだった気がする。逆にいえば、自分の意見も持っていないので、人の意見を簡単に受け入れられたのかもわかりませんけど。そのあたりを改造してくれたんじゃないかと思う。(どういうふうに?) 自分の意見をもつように、毎日毎日、働きかけてくる。私の考えが出るまで、ずっと帰ってくれない。終いには私も泣き出してしまいうぐらいで。それでもしつこく、どうしたいのか言ってみろ ということを言われて、私はそのうち何がしたいのかということ、無理にでも考えるようになっていって。(他にもありますか?) その人(恋人)は、いろんな可能性を考えて、その中から選択していくという形で、物事進めてくるという人で。私は、直感的にいいと思ったことをやってきてたタイプで、それでは人生危険が大きいのではないかと思って、彼の考え方を取り入れるようになりました。

ID17 (女性)

- a) 気が長くなったかな。何に対してでも、そんなに焦らなくなった。心に余裕ができた。(それはなぜ?) ちょっと、わからない。
- b) 最近ではあまりないです。(最近ではないとしたら?)

どんな人でも話してみないと分からないなとは思うようになってきました。大学に入って思うようになって、最近特にそうです。サークルで、前よりも頻繁に活動に参加するようになって、サークルの方々と話す機会も多くなって、それがきっかけで思うようになりました。

- c) あまりない。

ID18 (女性)

- a) ちょっとだけ料理をしないとかわいそうかなと思うようになった(それはなぜ?)このまあいったら、相手の人(恋人)が料理が上手だから、私は何もやらなくなると思って。
- b) 人は深く接してみなければ分からない、約1名だけ、友達の彼氏。知り合いになって、仲良しになりますよね。友達の輪がありますよね。その男がいろいろ違う子がおるとか、違う女がおってとかを人づてに聞いて。(他には?)大学の付き合いは微妙に仲良しというのがあるかな。自分とか、人を見とったりして。高校、中学校とか、クラスがあるし、グループというのがあるし、そういうのが決まってるけど、大学はグループがあるわけやないんやけど、グループがあるような。難しいんやろなって思うのが、男も女も。
- c) 友達二人と、彼氏と、4人でしゃべった時に、やっぱり社会に出たら演技は必要、演技というか我慢、必要やしという話を(恋人が)しとって。だから大学でもあの子嫌いと言っとらんと、それでもちゃんと付き合えるようになった方がいいよって。でも、二人でおった時は「嫌いやったら嫌いって言ったらばええ」と言っていた。「あの時はあの時」って言っとった。(でもそうなるべきかなと少し思うようになってったと?)うん。

ID19 (女性)

- a) 相手から離れたところで、自分がかんばるものを見つけようとしていて。自立しようとしているというか。恋愛でごたごたしたからといって、他の生活まで落ち込んだりとかないようにしたい。(それはなぜ?)夏休み中にすごい振り回されていて、夏休みっていろいろやりたいことがあったんですけど、何もできないままに終わっちゃったりして。そういうのにすごい、怒りというか、情けなくも思えたし。相手は自分の好き勝手なことやっているのに、こっちは振り回されて何もできなくなったり。そういうのに嫌気がさしたというか、情けなくなった。
- b) いや、特には、別に何も。
- c) (恋人の)友達に対してやさしい姿とかを見てると、

自分も、恋愛相手だけじゃなくて、友達にもこうやってやさしく、思いやりを持たなければいけないなど思うことはありますけど。変えられることはないです。本当の姿でも、見せていい部分と見せちゃいけない部分があると思う。最低限の礼儀とか思いやりとかは持っていないといけないとおもうんで、そういうところが、ちょっと変わってきたかもしれないですね。(それはなぜ?) その5月にもめたといっていたのは、それまでに私が本当に自分の姿をさらけ出しすぎてたみたいと思う。親しき仲にも礼儀ありとういうのがなくなってたと思う。それがきっかけかもしれない。

ID20 (女性)

- a) 自分では変わってないと思います。周りからも変わったとも言われないうで、変わってないと思います。
- b) すごい小さい時は、変なところ見せられないとか、変にプライドがあった。家族に見せる面以外と友達に見せる面と、家族にしか見せられない面というか、小さい頃の方が激しかったと思います。高校生ぐらいからだんだん、分け隔てなくなってきたというか。
- c) ないと思います。

ID21 (男性)

- a) 一番変わったと思うのは、心が広がったこと。結構わがまま言われても、なんだかんだいって聞いてちゃったりしてる。もともと短気なんですけど、なんかこの頃怒れない。(それはなぜ?) いや、ちょっとわかかんないんですけど。ちょっと麻痺してるような感じがする。みんなに言わせればそれはすごいわがままなことらしいんだけど、俺はいつものことやなあ。相手の人にもそうですけど、他の人に対してもそうなるような気がします。多分、そのことが基準となっている、そんなこと全然たいしたことじゃないみたいな。
- b) 前よりは、人と協調するというか、人に奉仕するといったら変ですけど、そんなようなやつはちょっとでてきたような。冷静に考えると、俺も結構、友達とかに助けられとるやないかというのを思い始めて。それで何俺は一人けち臭いこと言っとるんやろなと思って。そういうこともあったし、基準(恋人のわがまま)と比べたら、そんな程度たいしたことないしなとも思えるから。
- c) ないですね、はっきり言って。

ID22 (男性)

- a) 我慢しなきゃいかんところを、多少わきまえてきたというか。これをやったら、人の気分を害してしまう、そういうところで自分が一歩引くとか。そうい

うことが前にも増してわかるようになってきた。

- b) 変わってないですね。いちよう前と同じように、広く深くという。
- c) 別にないです。

ID23 (女性)

- a) 前は、違いがあつたら受け入れないで批判ばかりだったけど、最近、価値観の違いがあつてもそれを認め合つて、受け入れられるかということの方が大事だと思って。(批判的とは?) あまり深入りしないという感じ。(なぜそうなった?) 相手の人(恋人)と自分がすごい違いすぎたけど。もともと向こうが「似たもの同士だと気持ち悪いよ」って言って、ああそうかって。だんだんそういうのがわかってきたというのがある。最初は似たもの同士の方がうまくいってたけど、違ったもの同士でも足りないところを補い合つたり、いい刺激になったりとか面白いと向こうも言っていた。
- b) 前は自分と合わない人はもう友達じゃないというか。今はもうちょっと、好き嫌いの差が縮まってきた。うまくいかないなと思つても、それなりに、表立って仲悪くなるというのはなくなつたと思います。(それはなぜ?) 人当たりがよくなつたというものもあるし。あとは、今の学校とかが好きだから、問題とか憂鬱な部分はできるなら作りたくない、なるべく学校では楽しく過ごしたいって思うから。
- c) 最初の方に言ったようなこと(自分と合わないと思う人とも関わるという話を指している)。でも警戒心がちょっとなくなって人当たりがよくなつたとは言つても、やっぱり自分をさらけ出したりとかは、そうそう簡単にはできない。

ID24 (女性)

- a) すごく相手に依存するようになった。困つた時に、今までは大変なりにも自分でやってきたはずだけど、今はすぐ頼っちゃうところがある。精神的に頼るといふか、相談する。結局、結論は自分で決めるんですけど。それまでずっとお世話してもらつたというか。(いつ頃から?) 夏休み帰つてきて、その間たくさん会つたし。特に出来事はなかつたんですけど。いざ離れてみると、そういうことを感じるのかもしれない。
- b) あまり変わってません。
- c) (恋人は) すごく友達がたくさんいる人なので、何でもそんなにたくさんいるのかなって。そういうところ見てた時があつて。あれだけ良い友達がいるわけというのは、それなりにあると思つたんで、そういうところですごくうらやましいというか、私もそう

いうふうになりたいなとは思いました。(いつ頃?)
知り合ってから、大学入学した頃とか。(友達が多
い理由とは?) しゃべりやすいというのもあると思
うんですけど、やっぱり、友達にすごく本音で話し
ているし、めんどくさいことでも付き合っ
てあげたりしているところだと思います。

ID25 (女性)

- a) 相手の人(恋人)に喜んでもらえたらいいなと思っ
て、女の子としてどういうことが必要なかなって、
どういうことしたらいいのかなって。相手に見られ
ても恥ずかしくないようにしようということで、い
ろんなことに気を使うようになったのが変わ
りしたね。料理とか、少し勉強する気になったりとか。
今までそういうことはなかったの。あとは、相手
の人がきれい好き、部屋がきちっとしてるんで、私
ももっときれいにしよう。結構、相手が繊細な人
なんで、そういったことでひびが入っちゃわないよ
うに、気を使ったりするということですかね。あと
は、お互い悪いコンディションで会っても、気まず
いままでも別れるのもいけないということで。相手の
状況、わからないんですけど、そういうこと考えて
気を使うようにはなったり。相手の機嫌の悪い時に
うっかり声をかけてしまって、怒られたということが
何回もあったんで。
- b) 相手(一般的な他者)の全部をわかってるんだと思
い込んじゃうのはすごい怖いことだから。全部をわ
かるということは無理なんだと。だけど、それなり
に努力してお互い知り合いたいなってことはあって
も、ということ、最近考えました。(いつ頃から?)
いつかどっかの講演会でそういう話を聞いて、確か
にそうだなと思ったことがあります。
- c) 全部分かったって思うのは間違いだっていうのは、
彼が言ったことですね。彼は大学に入る前からそ
ういうの思ってたらしくて、だから全部分かったみ
たいに言われるとすごいカチンとくるんだと言っ
たことがあって、それで気をつけるようになったと
いうのもありますから。講演会でも、あっそうかっ
て、すぐに入ってきたのは、彼にも言われてたから
かなと。

ID26 (女性)

- a) ちょっとは、人の話を黙って聞く時間が長くな
ったかな。ここでいらついでしまうのは、自分、我慢が
足りへんのかなと思ったりとか。例えば自分がそ
うふうにいる時は、他の人からは聞いても
らってるのかなと思っただけ。ちょっとぐら
いは嫌なことがあっても対応と思って。(それはなぜ?)

相手(恋人)に言われたから。(いつ頃?) 付き合っ
て3ヶ月、普通に何でも言えるようになってきて、
相手が甘えるようなことを言ってきて怒ると、「短
気や」と言われるから。

- b) 最近思うのは、奇抜な意見をもってたととしても人に
言わなくてもいいこともあるかなと。(それはなぜ?)
一緒に仕事している男の子が奇抜な意見を言う、私
もそれに賛成は出来ても、他の人に対して不愉快な
思いしかさせないようなことだから。自分の意見を
主張するのもいいけど、そこまで本音で言わなくて
も、人とうまくやっていく方がいいのかと思って。
- c) 私がもともと、なんでもかんでも言いたいことを言
うという感じだったんで、それを多少、「あんま言
わん方がいいんちゃう」と言われたことはある。
(相手に言われたことだけがきっかけではなく) 自
分がちょっと言って人間関係がめんどくさいことにな
ったら、自分が損するだけやしと思ったり。(なぜ
そう思う?) なんでもかんでもバツて言っちゃう
子は、相手に対してぎこちなくなるところがある
かもしれんと思ったから。

ID27 (女性)

- a) 以前は自分は独立してる、人に依存することもなく
て一人でやっていけるみたいな感じだった。恋人に
も頼ることはほとんどなくて、弱みを見せるのは恥
ずかしいことだと思ってたんだけど、自分が思っ
たよりももっと弱いことがわかった。ほんとに自分
がやりたいように、建て前とか見かけとかじゃなく、
何がやりたいのかっていうのを考えるようになって。
(例えば?) 一つは交際相手に対して自分から会
いたいと言えるようになったし。将来のことも、建て
前とかを考えないで、やりたいことがあればやって
みちゃえばいいかなあ。(きっかけは、相手の人と
干渉し合わないという関係が、そうではなくて思っ
てることを聞けるようになったこと?) うん。
- b) 確か前回、相手を尊重するということ言った
と思うんですけど、それは変わってないですね。た
だ、相手がしたいことを認めるだけでは友達じゃな
いかも思うこともでてきました。(具体的には?)
やりたいようにやらせてあげる、あまり干渉しない
というのが基本なんですけど、アドバイスとして思っ
たことを言ったりとか、間違いを正そうしたり、
提案の一つとして言ってあげるという付き合い方も
あるんじゃないかなと。(最近、意識するようになった?)
そうですね。さっきの交際相手のこと(何でも話せる
関係になったこと)も原因でもありますし、一番親しい友人と泊まり込みのバイトの一ヶ月半と

というのは、寝食共に過ごしたわけで。今まで見えてなかったところも見えて、いろんな話をするようになった時に「それはやめた方がいいんじゃない」って自分は言ってたから。(相手を)尊重すべきかなと思うけど、そうじゃなくなってきた自分が今はいるって感じ。

- c) 交際相手と深まったということで、交際相手に対して安心感があって。何かあっても、言い方悪いけど、逃げ場所があって。友達やその他の人に対しても余裕をもって接することができるようになったから、聞かばっかじゃなくて、ちょっと言えるようになったかなと思います。

ID28 (男性)

- a) 友達という時間が減った。(それについてどう思う?)
やっぱり寂しいなと思うこともありますね、友達と遊んだら、もっと楽しいかもという時もあるし、でも彼女といて楽しく時を過ごせた時間というもの、もちろんあるから、fifty-fiftyですよ。(他には?)
お互いに(それぞれの)将来について、すごい語り合ってるんですよ。結婚の話もまったくでないし。
- b) 変な先入観をもたんと、とりあえず話してみても。合わへん人とは自然と疎遠になるし。合う人が一緒に遊ぶような仲にもなるやろし。僕は八方美人のきらがあるから。いろんな人に話しかけるし、いろんな人に話しかけられたいし、誰かとつるんで常に一緒というのは苦手だし。ちょっと寂しいという時もあるんですけど。高校時代まではつるみ友達とずっとおったけど、大学に入ってから、誰か特定のグループ作るんじゃなくて、いろんなグループに顔出すという感じで。(変な先入観を持たずにというのは昔から思っていたんですか?) うん。なんかあいつ嫌な奴やと聞いてたら、そのイメージがあったままいっちゃうから。いろんな人に声かけんの好きやから。
- c) 特にないですね。彼女が出来たからとか。……彼女と付き合うことで彼女の友達も増えたから、それでまた八方美人度が増えたのかな。親交の輪は広がったと思います。

ID29 (男性)

- a) 特に何も無いと思います。(別れの危機であることによっても?) そうですね、別れをちょっと覚悟したことが自分でもちょっとびっくりしたかな。今まで絶対そんなことなかったからですかね、自分が自信を持ってましたからね。何とかかなと思ったし、何とかしようとしたし。
- b) あんまり変わってないと思いますけど。
- c) 僕は常に対話というものを知らずに。対話(感情的

にならない、非難されてもいい)と、会話(その場が楽しければよい、感情的になる)という区別は人に教えてもらったことなんですけど。彼女に、僕は自分の意見をもっとちゃんと言うべきだということを初めて言われて、それがショックだったというのが、すごい大きいですね。ちゃんと言うところは言って欲しいんだよって言われて、今思うと対話のことを言ってたんじゃないかなあと思って。(いつぐらいに?) 付き合い始めてから、1ヶ月とか2ヶ月とか。だんだん打ち解け初めたぐらいで。「なんか合わせっぱなしじゃん」みたいなことを言われて。(他には?) どうしたら人が喜ぶかとか、相手が喜ぶかなということがよくわかるようになったと思います。

ID30 (女性)

- a) あんまり変わってないような気が。(付き合う前と今と比べては?) 付き合う前は自分の世界中心だった、自分が良ければいい生活だったんだけど、今は相手とか人のこと考えて、自分のこと考えるように。
- b) 高校の時とかは、普通一緒にいる友達以外は広く浅くみたいな感じだったんですけど、最近はそのように広く浅く付き合おうとか思わなくて、自分の大事な友達ともしっかり仲良く。前は、自分いい子ちゃんしてて、普通に話をするけど、自分の心の中のことを誰かに言おうと思っていなかった。そういうこと分かってくれる友達がいたら、すごいいいなあと思って。広く浅くいてもぜんぜん連絡とらなくなっちゃうわけだから、もっと親しい友達が、ずっと付き合っていけるような友達を作りたいなと思います。
- c) 自分のことをわかってほしいというか、全部肯定してくれなくてもいいんですけど、自分という存在を認めてほしいとか思ったのは、多分付き合い始めてから。その辺は友達関係にも影響してる気がします。(それはなぜ?) 他の人は別にどう思っているでもいいけど、この人(恋人)が分かっていてくれればいいなというふうに思った。

ID31 (女性)

- a) あまりないなと思います。
- b) 特に変わったことはないんですけど。相手になるべく自分といて楽しいと思ってもらえるように、嫌な思いをさせないとか、気をつけているつもりなんですけど。それでも、今思うと、やっぱり自分の性格の嫌なところが出てたんじゃないかなあと、そういうふうには今は思ったりもします。(なぜそう思う?) バイトがだめになったときに、いろいろ自分のことについて振り返って見た時に、そういうところもあっ

たんだらうなというふうになってしまった。

- c) あんまりないです。(恋人は) 友達の輪に入る人ではないから。本当に友達に友達で、付き合っている人は、本当に付き合っている人という感じだから、こっちとこっちで、影響があるというのはあまりない気がします。

ID32 (女性)

- a) ないですね。彼というよりは、一人で生活したという方がちょっと影響が。
- b) 今までの悩みがなくなった。そしたらすごく、今まで気になった嫌な人とか、友達に気を使って疲れるというのがなくなった感じがしてきて。そんなに気を使うのが苦にならなくなってきた。余裕が出てきたという感じ。人と付き合う上で、自分の精神状態とか状況とかによって、その人に対する評価とかも変わってくるから。そういう自分の状況をちゃんと知って、そういうことを考慮に入れて人と付き合いなくてはいと思います。(他には?) すっごいクールな付き合いに(新しい友人と) なってきちゃった。もう今までに、本当の友人とかいるじゃないですか。それで満足してしまって、新しく本当に合う人を探そうという意欲がなくなってきたなあって、最近思います。(それはなぜ?) 疲れたんですかね。自分のことで手一杯な年だったんで、今年は。
- c) 彼もほとんど人に本音を言わない人なんですけど、今気づいたんですけど。だから、知らず知らずに影響を受けているのかもしれない。あと、私は彼がいれば、その人には本音をすべて言える。そういう人がいることで、周りの人に淡泊な付き合いになってしまっているなとは思っています。もしそういう人がいなければ、もっと心を安定させるために、誰かにいろんな本音を打ち明けたり出来るのかもしれないんですけど。一人いることによって、他の人との付き合いが浅くなってきてと思います。

ID33 (女性)

- a) 私はその人(恋人)が勉強してることとか、その人が興味あることには一通り目を通したい。それによって、今まで苦手意識をもっていた、パソコンとかを意欲的に取り組めるようになったのは、変わったと思う。そういう面だけじゃなくて、初めのうちは、私は年下で後輩だから自然に保護してしまうって感じで。私はでしゃばっちゃいけないという意識があった。初めて甘えてしまった自分がいて。ああ、ちょっとこんな自分もいるんだかと思った。
- b) 前、確か群れるのはあんまり好きじゃないって。それ、考えたんですけど。それは実は格好つけなのか、

いろんな人と一緒にいることによって勢力争いとかいろいろあるんで、傷つくのが怖いからかなあととか、いろいろ考えた。でもやっぱり常に一緒に行動して、全部同じ授業を取ってとか、そういうのは。あんまり、変わってませんねそういうのは。

- c) ちょっとだけ。ある程度の枠組の、グループみたいなのがいて。その中でごちゃごちゃすると、私に関係ないことでも気がもめたりして。それを、人は人、自分は自分でと思えるようになったかなあと。(それはなぜ?) いつも他人と自分のことばかり気にするのも大切だけど、ある程度人は人で、自分は自分なんだという意識をもたないとやっていけないんじゃないと(恋人に)言われたから、それがけっこう、身にしみてて。それは親にも言われたことなんだけど。

ID34 (女性)

- a) 今はまだそんな別れてから、そんなに経ってないもんで、それを忘れようとしている部分が多いので、そんなに変化っていうのは。
- b) 特にない。
- c) 特には。

ID35 (女性)

- a) 思いつかないですね。
- b) やっぱり男の子は女の子にだらしない人が多いなあと思って。男の、彼氏も含めてですけど、本音と建前が大分あるなあって思うようになって。メール友達が彼女に言ってることと、その彼女の不満を他の女の子に言っちゃうのを見てると、自分の彼氏もそうかもあって思ったり。多少、ちょっと人の言ってることの裏を読もうとするようになったところはあと思っています。
- c) 男の人に対するというのが。彼だけを見てたら、そんなに男の人ってみんなそうだなとは思わなかったかもしれないけど。男友達とか、逆に男友達が彼女の前では、不満のないようなことを言っても、他の女友達になるとわがままだとか言ったり、そういうのをいくつか耳にしたり、実際に体験したりすると。特定の人がいつも、他の女の子にも、ちょっと親しくなるのを楽しむとか、そういうのは多少はあると思うけど、人によって。それでも、まったくいない人は少ないんじゃないのかなあって。

ID36 (女性)

- a) 相手(恋人)が経済の方面に詳しい感じなんで。私も新聞読んだりとか。やっぱり社会人になると英語が大切だって言われるんで、英語の勉強も始めて、続いてないけど。始める覚悟をしつつ。(恋人の影

響?)話してる内容とか、そういうことも多くて。趣味も、旅行とかアジアのこととか聞いてると、自分でも面白そうと思って、授業でアジア関係のことをとってみたり。

- b) 最近、なんか気軽に考えるようになって。前は、深い関係を求めたがってたと思うんだけど。そういうのも必要だけど、もっと気軽に付き合える感じから、でいいんじゃないかと思ってます。すべての人にそんな重い関係を求めても、それは、負担が大きから。それよりもっと幅を持たせて。(それはなぜ?)重い関係ばかり求めてると、他の人たちに対して自分から近づいていこうとしてなくて、限られた人しか話さないことになりかねなかったから。(他には?)自分のイメージが、どうやら人には、明るくておちゃらけるような性格と思われて。前は、そんなことないのにかかって思ってたけど、それは他人から見れば、それが自分なんだから、そういう自分も自分。んー、わかんない。(それはなぜ?)授業で仮面性とかいろいろなこと聞いてて、他者から見る自分と自分から見る自分というのとか、そういうのとか考えているうちに。私の中ではそれは両方自分なんだから、別に嘘でもないから、そのままいいんじゃないかな。別にそうしていることがつらいわけでもないって、最近思えるんで。

- c) 本当のことを言うことを求められてるから。相手のことを、相手のことが見た自分を想像してしゃべるんじゃなくて、自分の心の中から見た自分を出すことを。傷つくことは考えなくていいみたいなことを言うので、そういうことは多少影響してきていると。(いつぐらいから?)最初からそういうような言い方だったんで。相手(恋人)を見ていて思ったんかなあ。思ったのは結構最初で、それを自然に出来るようになったのは、どうだろ、夏休み前後ぐらいかな。

ID37 (女性)

- a) ぱっと思い浮かばないあたり、あんま変わってないんですかね。ただ、明るくなったねとはいつも言われます。もともと明るいんですけど。後ろ向きなところが少なくなったんだと思います。多分、向こうを励まさないかんとか思ってるから、そういうのも影響しているんじゃないんですかね。
- b) 前言ったこととあんまり変わってないと思います。今サークルの方でリーダーをやることになりそうで、所信表明みたいなのを書かされた。それを書いているうちに、自分に足りないものとか書いてみると分かると思うことあったり。彼氏のことだけじゃな

く、他の人との付き合い方でも冷静になる必要があるなとは思いますが。感情的になりやすいから、それは、リーダーにはあっちゃいけないことだからって言われて。一步違った面から、全体を見渡せる、そういう能力が必要だって先輩に言われて。私の生活全体に当てはまることだと思います。

- c) むしろ逆の方が多し気もしたりしますね。周りの人間と付き合いっていく上で、付き合っている相手に対する態度がちょっと変わったりとかも。付き合い合っている相手といるよりも、学部の友達やサークルの友達とか、他の人間といる時間の方が多から、そっちの影響の方が大きくなってきてると思います。付き合い合っている相手に対して感情的になることが多かったけど、それを気をつけるようにはなったんじゃないかと思います。

ID38 (男性)

- a) 特にはないです。
- b) 人の話をちゃんと聞くとか、相手(接する人すべて)にとって落ち着くような人になりたいとは思いますが。
- c) ないですね、特には。

ID39 (男性)

- a) 「最近、イライラしてるね」と言われた。今(勉強が)忙しい、それでいつも追まわれとるようなかんじで。彼女がこうやって感じ取るのは敏感やなと思いますけど。
- b) これはただ一例なんですけど。例えば電車に乗ってて、ご老人が入ってきたら席譲るとか。例えば松葉杖ついて歩いている人が、物上げづらそうなのを上げてあげるとか。そういうことを実行しようというふうに思うし。何をやるにも、そういう良いことをするにしても、人からどう思われるんじゃないかとか考えてなくて。考える、悩む前に行動するように多少はなってきたような気がする。
- c) 自分の考え方としては一所懸命努力さえすれば、結構自分が思ったことが可能になると思う。人に対してもこうしろ、こうしなあかんぞとか余計なおせっかいやく。自分が経験してたら、それをアドバイスすればその人間もできる気で、友人だからそういう期待も含めて。彼女が、みんなあんたみたいな考え方してる人ばかりじゃないよ、同じこと同じようにやっても出来ない人もいるし、いろんな人がいるから、そういうのは頭においといた方がいいよと言われた。ある意味自己中心的にきたのがブレーキがかかった。(恋人に指摘されて変わった?)彼女の様子とか。行動も含めて。人と接する時の表情、例えば、自分に言ってくるコメントだけじゃなくて、

何をしとるかなあと見とったり、身近な存在としてみると。異性のパートナーは、お互い注意を向ける機会も家族よりも多いと思うし、より深いレベルでいろんな話を聞けるから。

ID40 (女性)

- a) 知識が増えた。考え方が違う、「あっこういう考え方をして育ててきた人もいるんだ」という、そういう広がったというか、そういうのありますね。(それはなぜ?) (私と彼は) すごい根本が違うというか、考え方が違うところがあって。私は彼にいろいろ言うんですけど、でも自分はおばあちゃんからこういうふうに聞いているというのを聞いて。(一つの) 考え方に染まってる自分っていうだけじゃなくて、(他の) 人はこういうふう考えてるんだなあということが分かった。
- b) 最近は、人を傷つけないようになっていうのを、すごい自分の中で重くおいてて。自分の中で、「こういう意見がある」ってあるんだけど、でもこれはこのままの言葉で言っちゃこの人が傷ついちゃうから、ちょっと言葉を変えようというふうで、ちょっと考えるようになりました。(それはなぜ?) 私は自分がすごく傷つきやすくて、弱い子だって思ってた。いろいろな人と長い間一緒に生活をして、そういう時に、この人も実は弱いんだというのを見て、気づいて。自分だけじゃなくて、この人もこういうところではすごい弱いし、こういうところでは強いしというのを、見えるようになったというか、そういう感じですね。
- c) あんまりないと思いますね。

ID41 (男性)

- a) 今のところはそんなにないですけど、ただやっぱり、(勉強と彼女と) 両立できるのかと迷ったというぐらいですね。
- b) 特にないですね。
- c) 人との接し方とか、明るくなったとかはありますね。明るくなったというよりは、女の人としゃべるのがそんなに苦じゃなくなったとか。(それはなぜ?) いつも彼女としゃべってたら、女に対しての警戒心、自分の中にあった抵抗感が、ちょっとずつ薄れていったのかなあ、よくわかんないけど。彼女に言われて気づいた。

恋愛関係における相互作用が対人関係観へ及ぼす影響

(1) 恋愛関係のどのような相互作用が原因なのか

まず、恋愛のどのような相互作用が原因となって変化

が生じているのかについて検討する。要約中の下線(実線)が考察の対象となったところである。

大きく3つの傾向があるように思われる。一つは、「恋人をモデルとすることによる影響」である。ID1のcでは、恋人が同じ価値観の人を大切にしている人なので、徐々に自分もそれを意識するようになっていったと話している。ID2のcでは、恋人は自己主張ができ、自分の考えは言わなくてももっていないことと同じだという考え方であるので、そういうことを話しているうちに自己主張することの大切さに気付いていったと話している。このように、恋人の他者との接し方を観察し、恋人と話をすることで、恋人の考え方や価値観を知っていく。そして、それに共感し、それを取り込む形で、自己の価値観を変化させる。恋人が自己のモデルとして機能しているといえよう。この他にもID10のc、ID23のa、ID24のcなどが該当する。

二つ目は、「恋人からの直接的な働きかけによる影響」である。ID5のcでは、大学に馴染めないことを恋人に相談した時に、恋人から励まされたことでがんばってみようと思えるようになったと話している。これは、恋人からアドバイスを受れたり、指摘されたりすることによる変化だと考えられる。また、単なるアドバイスにとどまらず、二人の率直なやり取りが変化のきっかけになることもあるようだ。ID4のcが、「もしも自分が何か相手(恋人)に嫌なことを言った場合に、それが嫌だ返ってくるので」と言っているのがその例である。もし、自分が無自覚のうちに不適切な行動をしたとしても、恋人から率直な反応が返ってくるので自分の行動を自覚できるのである。どのような行動をすれば人は不快を感じるのか、どのような場面でどのような行動をとるのが適切なのか、ということを恋人とのやり取りから学んでいるようである。この他にもID12のc、ID16のc、ID39のcなどが該当する。

三つ目は、「恋人に対する信頼感や安心感に基づく影響」である。ID27のcでは、恋人に対し安心感が生まれ、また恋人との関係が逃げ場所ともなるため、周囲の人に余裕をもって接することができ、自分の意見も言えるようになったと話している。何があっても自分には励ましてくれる相手がいる、味方がいる、という恋人に対する信頼感や、恋人との関係に対する安心感からの影響だと考えられる。この他にもID4のa、ID13のbとcが該当する。

ここで見られた3つの傾向は、松井(1990)の友人関係の機能に類似している。まず、本研究での「恋人をモデルとすることによる影響」は、松井(1990)のモデル機能に相当すると考えられる。このモデル機能による影

響は、恋人間の価値観の類似性を生起させる重要なプロセスといえる。しかし、恋人に愛情や好意を感じるために恋人の考え方を表面的に模倣しているだけであるならば、価値観への影響が定着するのかどうかについて疑問が生じる。おそらく、最初は模倣から始めて次第に内面化されていくものであると考えられるが、その人がどの段階にいるのかを判断することは難しい。

「恋人からの直接的な働きかけによる影響」は社会的スキルの学習機能に相当すると考えられる。相川(2000)によれば、社会的スキル・トレーニングには一般に5つの基本的技法(教示、モデリング、リハーサル、フィードバック、般化)がある。本研究で見られた恋人からの直接的な働きかけとは、これらの技法のうち、フィードバックに対応するものと考えられる。フィードバックとは、学習者の行動が適切である場合には誉め、不適切である場合には修正を加えることであり、そうすることによって学習者がさらにスキルを実行しようとする動機を高めるものと考えられている。恋人からの指摘や率直な反応は、相手が恋人であるだけに報酬価値も高いと予想される。ただし、否定的な反応であった場合のショックも大きく、社会的スキル・トレーニングのような建設的な仕方ではフィードバックが与えられるとは限らない。ここに、現実の関係内でスキルを身に付けることの難しさがあるように思われる。

「恋人に対する信頼感や安心感に基づく影響」は安定化の機能に相当すると考えられるが、多少相違があるように思われる。安定化の機能は、恋人(友人)に悩みを聞いてもらい、また一緒に活動することを通して、精神的安定がもたらされることをいう。一方、本研究の「恋人に対する信頼感や安心感に基づく影響」の場合は、そういった精神的安定がもたらされ、さらにそれを基盤として対人関係観へ影響が見られることを指しており、安定化の機能が意味するものを包含する。また、「恋人に対する信頼感や安心感に基づく影響」は、愛着理論で言及される内的作業モデル(Internal Working Model, 以下IWMと記す)の考え方から解釈することも可能である。IWMとは、愛着対象との持続的な相互交渉を通して人の内部に形成される心的表象のことであり、それには対人関係についての期待や信念が含まれている(戸田, 1991; 金政・大坊, 2003)。戸田(1991, 1996)によれば、IWMは乳幼児期の親子関係が基盤となって形成されるが、その後の成長過程における様々な愛着対象との関係の中で追加・修正を繰り返して構造化されていく。青年期にはいと大きな転換期を向かえるが、それは恋人という新たな愛着対象の登場によりIWMの再構成が求められるためであると述べられている。本研究の対

人関係観はIWMの一部に含まれるものとも考えられる。ID27のcは、「交際相手と深まったということで、交際相手に対して安心感があって。何かあっても、言い方悪いけど、逃げ場所があって、友達や他の人に対しても余裕をもって接することができるようになった」と言っており、恋人が安全感を与える愛着対象となっていることが確認できる。このように考えてくると、「恋人に対する信頼感や安心感に基づく影響」とは、本研究で見られた他の2つの影響プロセス(モデルとすることによる影響、直接的な働きかけによる影響)を包含する、もしくはその前提条件として位置付けるべきであるように思われる。つまり、安全感を得られる関係が形成できて初めて、恋人がモデルとなり、また恋人の反応に大きな影響を受けるのではないかということである。

本研究で見られた3つの傾向は、恋愛関係・友人関係に共通する機能と思われる。しかし、機能としては同じでも、恋愛関係の方がその影響力において強いという可能性も考えられる。恋愛では相手を実際よりも理想化してみる傾向があり、また、理想化は関係の満足感と関連するといわれている(Murray, Holmes, & Griffin, 1996a, 1996b)。そのため、友人がモデルの場合よりも、恋人がモデルとなった方が、モデルとしての影響力の強いことが予想される。また、ID4のcが、「普通の友達だと、相手は言わずに我慢しちゃって返ってこない場合が多い」と言っているように、友人よりも恋人の場合で率直な反応が返ってきやすいとしたら、直接的な働きかけによる影響も恋愛関係において生じやすいと考えられる。このような影響力の違いが恋愛関係と友人関係の間にあるのか、さらに、その違いは恋愛関係・友人関係という関係の様態が重要なのか、様態を越えた別の要因があるのか、今後の検討が必要である。

(2) どのような内容の対人関係観が変化したのか

次にどういった内容の対人関係観が変化したのかについて検討する。多様な内容が報告されているが、その中でも回答の多かった2つの対人関係観を取り上げる。

一つは「本音を率直に語る」というものである。ID29のcでは、自分の意見など、言うべきことはきちんと、人と正面から対話することを重視するようになったと話している。ID36のcでは、傷つくことを考えずに、自分が思った本当のことを言うことが自然とできるようになってきたと話している。これらは、相手に遠慮して何も言わなかったり、自分が傷つくのが恐くて言えなかったりするのではなく、自分が思ったことを話すべきだ、という考え方への変化を表わしている。この他にもID2のc、ID16のbとc、ID27のbとcなどが

該当する。

二つ目は「相手に配慮して行動する」というものである。ID4のbでは、以前はそれが正しいことであれば人が傷つくことでも言えたが、少しは思いやって話せるようになったと報告している。ID19のcでは、自分の本当の姿だとはいっても見せてはいけない部分もある、礼儀とか思いやりをもつ必要があると実感したと話している。これらは、たとえそれが正しいと思うことであっても相手の立場に立って物を言う、思いやりをもつ、という考え方への変化を表わしている。この他にもID24のc、ID26のaが該当する。

これら2つの対人関係観の変化は、多川(2002)において恋愛関係の親密化が「協調性・誠実性」「主張性」に影響していたという結果と一致している。青年にとって、これら2つの側面は重要かつ、影響を受けやすい対人関係観といえるだろう。また、これら2つは頑に実行しようとする対立する価値観となりうる。率直に語るということは相手を傷つける可能性もあるからである。したがって、両者のバランスをうまくとる、もしくは場面に応じていずれかに比重をおくことが必要なのであろう。岡田(1995)は、現代青年の友人関係の特徴として、表面的な親密さや楽しさを求める傾向、関係が深まることを恐れる傾向、互いが傷つくことを恐れる傾向などが、これまでの研究に共通して指摘されているとしている。一方、落合・佐藤(1996)は中学生、高校生、大学生を対象とした調査において、大学生は、友達とは本音を出し心をうちあけて話ができ、互いにわかりあえるような付き合いをしようとしていることを示している。青年は、相手に配慮することと本音を語りあうこととの間で葛藤し、時にはこれらの価値観を修正しながら対応していると考えられる。

これら2つの対人関係観以外には、「周囲と積極的に関わる(ID5のc、ID10のc)」「人を信用できるようになった(ID13のc)」「価値観の違いを認め合う(ID23のa)」などが報告されていた。また、変化した対人関係観とその原因との間に特に関連は見られなかった。

恋愛関係以外からの影響と、対人関係観以外への影響

前節では、恋愛での相互作用により対人関係観が変化したケースについて検討した。しかし、対人関係観は、恋愛関係だけでなく、親友や仲間との関係などから影響を受けることも考えられる。さらに、恋愛関係が影響するものは、対人関係観だけではない可能性もある。そこで、これらの2点について検討を加える。

まずは、対人関係観は何に影響されるのか、恋愛関係

以外の原因としてはどのようなものが報告されているのかについて検討する。要約中の下線(波線)が考察の対象となったところである。

主に2つの傾向が見られた。一つは、友人との相互作用である。ID27のbでは、友人と一緒に泊まり込みのバイトを経験し、今まで見えてなかった友人の一面を知り、また様々な話ができるようになったことをきっかけとして、友人にアドバイスをするのも良いことだと考えるようになったと話している。ID16のbでは、友人から気を使わないでほしいと言われたことから、お世辞も含めて嘘をつかないという考え方に変わったと話している。これらは、自分の言動に対する友人の反応や、友人からの指摘やアドバイスを受けての変化である。恋愛関係で見られた3つの傾向にあてはめると、「友人からの直接的な働きかけによる影響」であると考えられる。一方、「モデルとすることによる影響」や「信頼感や安心感に基づく影響」に該当する内容はみられなかった。したがって、恋愛関係の場合は3つの影響のプロセスが同程度に生起しているが、友人関係の場合は「直接的な働きかけによる影響」が主な経路であることが示唆される。ただし、本研究では恋愛関係に焦点をあてた質問を構成しており、友人との相互作用に関する報告自体が少ないことに留意すべきである。この他にもID7のb、ID9のb、ID10のbが該当する。

二つ目は、サークルなどの課外活動、グループ活動を通しての変化である。ID4のbでは、学校内で何かを任される立場になったときの経験から、それが正しいことでも相手を思いやって話すことを心掛けるようになったと話している。ID15のbやID17のbでは、サークルやゼミ合宿に参加することで、普段は話すことのないような人々とも話せたという体験から、様々な人と接することの大切さを実感している。これらは「仲間からの直接的な働きかけによる影響」であると考えられる。ここでも「直接的な働きかけによる影響」が主な影響のプロセスであることが示唆される。この他にもID8のb、ID37のb、ID40のbが該当する。

次に、恋愛関係が影響するものは何か、対人関係観以外にどのようなものへの影響が報告されているのかについて検討する。要約中の下線(点線)が考察の対象となったところである。

主に2つの傾向が見られた。一つは、精神的に安定し、余裕が出てきた、明るく前向きになれたというものである。ID7のaでは、一人暮らしなので何でも一人でがんばらなくてはと気負っていたのが、心配事や嫌な出来事があっても話せる恋人ができたことで、緊張が解けて精神的に安定してきたと話している。ID17のaでは、

恋愛関係から受けた影響として、何に対してもそれほど焦りがなくなり、心に余裕ができたと話している。恋人が安全感を与える愛着対象となっていると考えられる。この他にもID10のa, ID37のaが該当する。

二つ目は、勉強やその他の物事に対する意欲が出てきたというものである。ID33のaでは、恋人の興味あることにはとりあえず自分も関心をもつので、それがきっかけでそれまで苦手としていたパソコンについて意欲的に取り組めるようになったと話している。ID36のaでは、恋人の興味関心に影響されて、自分も新聞を読むようになり英語の勉強を始めようと思ったと話している。物事に対する意欲が出てきた理由は比較的一貫しており、恋人がしているから自分もするということが報告されていた。これは、「恋人をモデルとすることによる影響」だと考えられる。恋人が興味をもって何かをしている様子を、近くで頻りに観察することによって、同じ対象に興味をもつようになったと考えられる。この他にもID9のc, ID10のa, ID25のaが該当する。

恋愛関係は対人関係観の変化を促すだけではなく、精神的な安定をもたらし、また物事に対する意欲を向上させることが示唆された。しかし、恋愛関係の影響はこのようなポジティブな影響だけではない。本研究でもネガティブな影響を報告した回答者が見られた。ID3のaでは、恋人との関係が安心して戻れる場所となっており、今までのように積極的に人と関わる必要がなくなったと話している。ID24のaでは、恋人に依存するようになってしまったと話しており、ID32のcでは、本音を言える恋人がいることで周囲の人との付き合いが淡白になってしまったと話している。ここで興味深いのは、安定した恋愛関係の形成が必ずしも周囲の人との積極的な関わりに結びつくわけではないということである。どのような要因が、周囲との積極的な関わりを促し、また阻害するのか、今後の検討が必要である。

本研究のまとめと問題点

本研究の結果は次のようにまとめられる。

1. 恋愛関係が対人関係観へ影響を与えるプロセスとしては、恋人をモデルとすること、恋人からの指摘や反応などの直接的な働きかけを受けること、恋人に対する信頼感や安心感に基づくものが考えられた。このうち、恋人に対する信頼感や安心を感じることは、対人関係観への影響の前提条件である可能性が示唆された。
2. 影響を与えられた対人関係観は多様であるが、主なものとして、本音を率直に語る、相手に配慮して行動するなどが挙げられていた。これらは、青年にとって重要かつ、影響を受けやすい対人関係観であることが

示唆された。

3. 恋愛関係以外からの影響としては、友人との相互作用やサークル活動などが報告された。また、恋愛関係における相互作用は対人関係観だけでなく、精神的な安定や物事への意欲にも影響するという報告も見られた。

本研究での問題点は、ここで見いだされた知見が筆者の主観的解釈に依るところが大きいことである。今後はまず、ここで見られたいくつかの傾向に沿ったカテゴリーを生成し、それに明確な定義づけを与えることが必要である。その上で各回答を分類し全体の傾向を確認しなければならない。本研究は探索的な面接であったため、多様な回答を求め、質問意図の解釈も被面接者にゆだねたところが大きかった。したがって、回答が抽象的である、回答に矛盾がある、前後の文脈をふまえないと回答の意図が不明である、などカテゴリー分類をする上で困難な点を抱えている。また、分類の対象となる箇所を同定する段階で評定者の主観が混入してしまう点も問題となる。このような問題に可能な限り対処していく必要がある。また、本研究では被面接者に学歴や性差に偏りがあることも指摘しておかねばならない。

引用文献

- 相川 充 2000 人づきあいの技術 社会的スキルの心理学 セレクション社会心理学20 サイエンス社
- Dietch, J. 1978 Love, sex, roles and psychological health. *Journal of Personality Assessment*, 42, 626-634.
- 堀毛一也 1994 恋愛関係の発展・崩壊と社会的スキル 実験社会心理学研究, 34, 116-128.
- 金政祐司・大坊郁夫 2003 青年期の愛着スタイルが親密な異性関係に及ぼす影響 社会心理学研究, 19, 59-76.
- Kerckhoff, A. C. & Davis, K. E. 1962 Value consensus and need complementarity in mate selection. *American Sociological Review*, 27, 295-303.
- 松井 豊 1990 友人関係の機能 斎藤耕二・菊池章夫(編著) 社会化の心理学ハンドブック 人間形成と社会と文化 川島書店 Pp.283-296.
- Murray, S. L., Holmes, J. G., & Griffin, D. W. 1996a The benefits of positive illusions: Idealization and the construction of satisfaction in close relationships. *Journal of Personality*

- and Social Psychology*, 70, 79-98.
- Murray, S. L., Holmes, J. G., & Griffin, D. W. 1996b The self-fulfilling nature of positive illusions in romantic relationships: Love is not blind, but prescient. *Journal of Personality and Social Psychology*, 71, 1155-1180.
- Murstein, B. I. 1970 Stimulus-value-role: A theory of marital choice. *Journal of Marriage and the Family*, 32, 465-481.
- 落合良行・佐藤有耕 1996 青年期における友達とのつきあい方の発達的变化 教育心理学研究, 44, 55-65.
- 岡田 努 1995 現代大学生の友人関係と自己像・友人像に関する考察 教育心理学研究, 43, 354-363.
- Ruvolo, A. P., & Brennan, C. J. 1997 What's love got to do with it? Close relationships and perceived growth. *Personality and Social Psychology Bulletin*, 23, 814-823.
- 多川則子 2002 親密な人間関係が対人関係観に及ぼす影響 対人社会心理学研究, 2, 65-73.
- 戸田弘二 1991 Internal working models 研究の展望 北海道大学教育学部紀要, 55, 133-143.
- 戸田弘二 1996 恋愛関係の成立と進展 大坊郁夫・奥田秀宇(編) 対人行動学研究シリーズ3 親密な対人関係の科学 誠信書房 Pp.118-147.
- (2003年9月30日 受稿)

謝辞

本論文の執筆において、御指導、御助言を下された名古屋大学の吉田俊和先生、元吉忠寛先生、ならびに多くの質問に真摯に御回答下さった被面接者の皆様に心より感謝申し上げます。

ABSTRACT

An Exploratory Study into the Effects of Romantic Relationships on
Adolescents: Focusing on the Individual's View of Interpersonal Relationships

Noriko TAGAWA

The purpose of this study was to examine the effects of interactions within romantic relationships on adolescents through semi-structured interviews. In particular, it focused on the individual's view of interpersonal relationships, i.e. how one views relating to others. Thirty-nine students (9 males and 30 females) who were engaged romantic relationships participated in the semi-structured interview. The main themes derived from the interview included modelling the partner, direct reactions of him/her, trust and security attained from the him/her and how these influenced their view of interpersonal relationships. Results showed that various types of influence were seen, such as being able to frankly express one's opinions, and attaining interpersonal sensitivity. Some influence from relationships aside from romantic ones, such as friends or social circles were also reported. Furthermore, it was discovered that interaction within romantic relationships not only affects the individual's view of interpersonal relationships, but also provides him/her spiritual comfort, and raises his/her activity level.

Key words: romantic relationships, interactions within romantic relationships, view of interpersonal relationships, semi-structured interview